



※定住外国人子ども奨学金ニュースレターWeb版は個人情報などの都合上、内容を一部変更しています。

第9回カンタービレ・コンサートを終えて

2017年10月1日、今年で第9回目を迎えたカンタービレ・コンサートが、新長田ピフレホールにて開催されました。このコンサートは、収益のすべてを「定住外国人子ども奨学金」へ寄付し、外国にルーツをもつ子どもの高校進学奨学金に充てることを目的にしています。

今年は、バリトン歌手の澤井宏仁氏、ソプラノ歌手の坪田雪氏による兄妹デュオコンサート。ピアノ伴奏として宇野洋子氏にご出演頂きました。演目は、「椿姫」から「乾杯の歌」、「魔笛」から「パパパの二重唱」、「フィガロの結婚」から「もう飛ぶまいぞこの蝶々」、「ジャンニ スキッキ」から「私のお父さん」などです。演目に関する楽しい解説とトーク、そして兄妹ならではの息の合った演奏で、お越し頂いたすべての方が楽しめるコンサートとなりました。さらにデュオコンサートの前には、兵庫県立大学マンドリンクラブの方にお越し頂き、普段聞きなれない楽器の音色を楽しむことができました。

また奨学生には演奏の幕間に登壇してもらい、ルーツのある国のことや現在の学校生活の様子などを話してもらいました。今回が2回目となる2年生、3回目となる3年生は幾分落ち着いた様子で話していたように思います。今年が初参加の1年生は、少し緊張した様子で表情は硬かったですが、頑張って話していました。N委員が持ち前のトーク力で奨学生の緊張を上手く和らげ、奨学生それぞれの個性を引き出した素晴らしい自己紹介になったように思います。来年は節目となる第10回目なのでより多くの方に来て頂けたらと思います。

(奨学金事務局インターンO.N)

奨学生からのメッセージ

- ・今回は、下の二つのテーマのなかから一つを選んで作文を書いてもらいました。
 - ・年末年始の過ごし方 ールーツのある国と日本を比較してー
 - ・自分で決めたテーマ

N さん (10 期生)

「年末年始の過ごし方」

僕の今回の作文のテーマは年末年始の過ごし方です。日本では、様々な行事が年末年始に行われま
すね。自分のルーツの国であるブラジルでも同じように様々な行事を行うようです。

まず、年末年始に食べる食べ物ですが、日本では年越しそば、地域によってうどんや、おせち料理
として数の子や黒豆を食べたりしますね。ブラジルでは、豆のシチューのような、フェイジョンによ
く似た豆料理を食べます。フェイジョンに使われる豆より少し平たく円盤形で、味が少し薄めのもの
です。これにはおせちのえびで、“腰が曲がるまで長生きできるように”という願いがあるように年の
数だけ食べると良いことがあるといういわれがあるらしいです。でも僕はおいしいのでそんなことあ
まり気にせずパクパク食べてしまいます。他には、年末年始には鳥肉を食べてはいけないという決まり
ごとのようなものもあるようです。宗教的な事なのか、元々伝わる物事なのかは良く知りませんが、
食べるのは良いことではないようです。それに合わせて、自分たちの家では、クリスマスシーズンに
できるだけ積極的に唐揚げや鳥の丸焼きを食べるようにしています。そして年末年始には牛肉と豚肉
を食べて過ごします。昔、まだそのことを知らないくらいの小さい頃に、知り合いの人と一緒に年末
年始を過ごしたのですが、その時食べたおせち料理にかもの肉があって食べてしまったことがありま
した。今考えると、自分の家庭とおせちはあまり相性がよくないのかな、と少し感じました。

行事については、最近のカウントダウンという若者が友人同士で集まってにぎやかに過ごすという
ものもありますが、除夜の鐘など、厳かな雰囲気の中静かに年明けを実感するということが日本では
行われます。ブラジルは、カーニバルのようにみんなお祭り騒ぎで過ごすようです。そして有名ミュ
ージシャンによるライブなど、紅白歌合戦とはまた違ったことも行われ、カウントダウンのときは花
火が打ち上げられます。とてもにぎやかだそうです。

新年の挨拶では、日本では着物を着たりしますが、ブラジルでは色にこだわりがあるようで、平和
を意味する白の色の服を着る人が多いようです。そして挨拶にお互いにハグを交わして良い年になる
ことを祈るそうです。それから、最近知ったのですが、ブラジルでもお餅やぜんざいが食べられる地
域もあるようです。日本とブラジルに共通点があってとてもうれしく思いました。

夏休みと違って、今回はその両文化をしっかりと体感できました。ブラジルで、お餅やぜんざいを
食べる地域があるのと同じように、自分たちも、定着させられなくとも、こういうことがあるんだ、
と周りの人に知っていただければいいなと思いました。

V さん (10 期生)

「親友」

“Some people come into our lives and quickly go. Some stay for a while and leave footprints
on our hearts. And we are never the same.”

毎日毎日急速に変化している今の世界では良い友達と出会えるのが難しいというシチュエーション
になっています。好運にも私はその環境の中で素晴らしい人々と友達になり、親友とも奇跡のように

出会えました。

彼女は小さい頃からずっと一緒である友達ではなく、英語が大好きであったのになぜか分からないですが中学の時に私と同じ数学専門のクラスに入って席まで隣になりました。最初の頃彼女のことが大嫌いで顔を見るだけでケンカをしたくなるくらいでした。しかし、いつの間にか仲良くなり、どこに行くのも 2 人は必ず一緒でした。

彼女は静かですが地味にうるさいタイプでした。まるで玉ねぎのようにめくったら新しい面が出てきました。彼女と一緒にいると私の毎日がドラマのようでした。

仲良しだから一緒にいる時間が長く、一日 24 時間中 13 時間くらい一緒でした。食べることが大好きな私たちは朝食も昼食も一緒に食べ、お腹が空くと絶対相手に「何食べる？」と聞いたり、おいしい物を発見したらすぐに報告し、一緒に食べに行ったりしました。一緒にいる時間が多いため何でも話せるようになり、私はしゃべる役で彼女が聞く役になってくれました。母にも話せないことを彼女にはすぐ相談ができます。本当に彼女と一緒にいるとスマートフォンの存在を忘れるくらいしゃべり続けられました。

見た目も似ていて、好みも同じで、いろんなことに一緒に挑戦して、たくさんの困難なことを一緒にのりこえてきて、私の日常生活にとってはなくてはいけない存在になった彼女とはまさかの別れを迎えました。それは私が日本に行くことが決まったからです。

クラスが初めて違って、学校も違って、環境、住む国まで違うことになりました。むこうが忙しくて、私の方も時間がなく、そして時差であまりしゃべれなくなりましたが、彼女に対する気持ちがさめた瞬間は一回もなかったです。離れていても、彼女はずっと私の支えであり、私の親友です。

70 億人の中の彼女と出会って、彼女と仲良くなったことは本当に奇跡です。彼女との出会いが私にとって一生の宝物です。この世界が変わって行って、いろんなことも変わっていくと思いますが私たちの友人関係は一切変わらないと確信しています。彼女が世界一最高の BEST FRIEND であることはずっと変わりません。

K さん (10 期生)

「本格的年末年始」

12 月になって、期末テストも終わった今ごろ、学校ではいつもお正月の話をしている人がいたり、スーパーなどに買い物に行くと鏡餅が目立つところに並んでいたり、いろんな店でおせち予約のポスターが壁に貼り出されていたり、さまざまな事柄が私にお正月がもうすぐ来ることを教えてくれます。

お正月といえば、私のルーツである中国のお正月は旧暦の 1 月 1 日なのでいつも 2 月中ごろになります。日本では西洋と同じく新暦のお正月を祝うので、今まではお正月なのに特に何もせず過ごしてきました。ただし今年ちょっと違います。高校に入ってから周りは全員日本人にかわりました。日本人の友達も多くなって、たまに一緒に遊びに行ったりしました。この前も 2 人でルミナリエを見に行きました。一緒に学校終わりに制服のままで行って三宮で晩御飯を食べた後、見に行きました。帰り道に年賀葉書売っている屋台がありました。

「ね、今年年賀状を交換する？」と私が聞きました。

「え、今はもうメールで送るほうがいいよ。」と友達が答えました。

友達の話聞いて、やはり私は時代遅れなのではないかと思いはじめました。家に帰った後、私と同じく中国人の先輩に年賀状のことについて聞きました。先輩は昨年メールと葉書を両方使ったそうです。

このように、私は正月のルールを少しずつ勉強しています。例えば年越しそば、餅、お雑煮など。食べ物だけではなく初詣もあります。でもやはり日本のお正月と中国のお正月は違います。

中国では、冬休みは2ヶ月ぐらいと長くて、正月は冬休みが始まってから二週間後に迎えます。正月になると全部のお店は約1週間休業します。そのためにみんなは野菜、肉などを大量購入して、次からの一週間の準備をします。食べ物では“十全十美”のよい意味をとるために料理を十品つくりまです。多めにつくって家族と一緒に食べるのが基本です。料理の品目は決まっていますが必ずギョーザ、魚と豚肉を含む料理があります。

お正月を楽しみにしています。お正月の過ごし方の違いなどから日本文化を少しずつ学んで異なる文化を理解し、生活していきます。

Kさん (9期生)

「スマホと高校生」

私は、スマホはとても便利だと思います。今日では、大抵の高校生が便利なスマホを持っていろいろな場面でスマホを使っています。例えば、親との連絡、友達とのコミュニケーション、調べ事をする、など使い方、使う場面はさまざまです。このようにスマホはとても使い勝手がよくメリットが多いです。しかし、メリットがあるということはデメリットもあります。私たちは高校生なのでスマホを使う時はこのデメリットについて考えないといけません。特に気をつけないといけないのは友人とのコミュニケーションと SNS 上での発言です。スマホでやりとりをする時はだいたい文字でのやりとりだと思います。文字でのやりとりでは相手の表情が読めないので言葉に気をつけないと相手を傷つけることになります。また SNS 上でいい加減な発言をしたり、ふざけた写真を投稿したら、見ている人は不快に思うし、色々な人に迷惑がかかります。私たちはもう高校生ですから、自分たちのしたことはある程度責任を取らなければなりません。

また、日常生活の中でスマホをさわる時間が増えてきていることも問題だと思います。友人とのコミュニケーションに気をとられ高校生の本分である勉強がおろそかになり成績が下がるというケースをよく耳にします。こういうことは本人たちの意志で悪い状況を変えることができます。ですがこういった問題はなかなか解消されません。これがスマホの最大のデメリットだと私は思います。この問題を解消していけば、スマホと私たち高校生はうまく付き合っていけると思います。

私たちはなぜスマホをもっているのか？それはただただ便利だから、と言う理由だけではなくスマホは善悪を考えるには最も適切であると思うので、物事の善悪を見極める力をつけるために、私たちはスマホをもっているのだと私は思います。

Gさん (9期生)

「修学旅行に参加して」

私は、9月11日から4泊5日で北海道に修学旅行に行ってきました。行く前は、高校の修学旅行は、中学校の時とはどのように違うのかと期待と不安でドキドキしていました。

飛行機に乗って上空から眺めた日本列島はとても美しかったです。10年前にベトナムから飛行機に乗って日本にやって来た時の記憶が脳裏によみがえりました。

着いた先の北海道は、平野が一面に広がり緑が豊かでした。日本にもこんな所があるのかと感激しました。私が持っていた日本のイメージは、ビルが立ち並び、たくさんの自動車が忙しく走り回っている街でしたが、北海道は違っていました。千歳空港からバスで少し行くとそこはもう、草原で牛や馬がのんびりと草を食べていました。時間がゆっくりと流れている様に感じました。

一番心に残っていることは、この5日間学校にいる時と同じ様に規則が厳しかったことです。私は

高校の修学旅行というのは、自分達が考え計画し自由に行動ができると思っていましたが、私の考えが甘かったです。朝は5時に起床し朝食を済ませた後はすぐにバスでの移動でバスにばかり乗っていた気がします。その上、3日間も雨が続き行動範囲が狭くなりました。楽しみにしていた屋外での活動は最後の班行動ぐらいでした。その中でも、劇団四季の「ライオンキング」の観劇は素晴らしかったです。私は本物の劇を見たのは初めてだったので、感激して言葉もありませんでした。最後のフィナーレの場面では、全員が立ち上がり拍手をしていました。もちろん私達も手が痛くなるほど拍手しました。

それにこの旅行で嬉しかったのが、食事です。毎回おいしい和食や洋食を食べることができて大満足でした。私の母は、ベトナム料理は得意ですがその他の料理は作ることが出来ないのです、この旅行中に食べ溜めしてしまいました。特にカニがおいしかったです。

白老ポロトコタンでのアイヌ民族の文化に触れる活動は、とても貴重な体験になりました。北海道にアイヌの人々が住んでいたことは知っていましたが、実際に見たり聞いたりしたことでよく分かりました。

私は、修学旅行を通して知らなかった日本のことをまた一つ知ることができました。実際に行って自分の目で見たり体験をしたりすることの大切さを感じました。日本は、狭い島国だと言われますが、私にとってはとても広い国だと思いました。

Pさん (9期生)

「クリスマス in フィリピン」

今年も春が来て、夏が来て、秋が来て、冬が来ました。そしていよいよ今年も終了の時期が来ました。ここで僕は自分のルーツのある国、フィリピンについて紹介させていただきます。

フィリピンは東南アジアにあります。東南アジアにあるため日本より南にあり、また赤道に近いので気温が一年中高いです。だからこのクリスマスの時期も日本と違って冬の冷たい風ではなく夏のような暑い風が吹いてきます。

さてここからは文化について紹介していきたいと思います。まずフィリピンはキリスト教を信仰する人が多い国です。そのため多くの家庭はクリスマスを祝っています。フィリピンでは、「bermonth」というものがあります。それは英語で9月から12月まで、全部「ber」で終わっていることを表しています。「bermonth」になれば多くの人がクリスマスの時期に向かって気分転換をし、そこからクリスマスに向けて早速準備を始める人が多くなります。家の外または周りにクリスマスディスプレイを飾ります。またレストラン、デパートといった店の方からもクリスマスデコレーションを飾り始めます。そして12月になるとそこからクリスマスツリーと家の中にクリスマスデコレーションを飾り始めます。これは大人も子供も楽しんでできることであり家族での絆が深まります。

またここで日本と大きく異なる点は、クリスマスは家族で過ごす時間であるということです。多くの人はクリスマス前までに実家に帰ることが多いです。またドッキリサプライズとしてクリスマスイブやクリスマスの日に帰って家族を驚かせる人たちもいます。

クリスマスは大きなイベントで家族が揃って祝うことが多いです。いとこ、おばさんおじさんまた祖父、祖母も合わせてみんなで大家族で祝います。フィリピンではクリスマスディナーというものはありませんが、お気に入りの料理を多く作り、みんなでクリスマスイブにご飯を食べます。そして子供たちは十二時になることを必死に待ちます。それは十二時になるとクリスマスイブからクリスマスに変わり、そこで初めてサンタさんからのプレゼントを開けられるようになるからです。

これらのようにフィリピンではキリスト教の影響でクリスマスを家族みんなで祝います。それは、年末年始まで続き家族と共に過ごすことが大切な習慣になっています。

K さん (8 期生)**「年末年始の過ごし方」**

僕の年末年始は祖父母の家で過ごします。親戚がほとんど祖父母の家に集まるので、とても賑やかで楽しいです。そんな中、祖父母の家で何をしているのかを紹介します。

まずは年末のことから。僕らの家では毎年親戚と一緒に餅つきをします。白餅やよもぎ餅、豆餅をつき、白餅やよもぎ餅の中にあんこを入れた餅も作ります。全員が協力して作る餅なので、本当に美味しい餅です。あと、ルールみたいなので、各個人が自分の数え年の分だけは必ずつくというがあります。

そして、餅つきが終われば親戚と焼肉をします。頑張ってた後に食べるお肉は、最高に幸せな気分になります。年末はこのような感じです。

次は年始の過ごし方へ。年始である 1 月 1 日の元旦は、たくさんの料理を並べてご先祖さんに挨拶をします。それが終わった後、親戚で正月の挨拶をして、ご飯を頂きます。ご飯はご先祖さんに挨拶した時のを食べます。基本的に韓国料理がメイン（ナムルやチヂミ、タングなど）ですが、おせち料理も出てきます。日本と韓国の正月料理が食べられるので、僕はとても嬉しいです。

日本と韓国の両方を組み合わせた感じが、僕の年末年始の過ごし方になります。ルーツのある韓国では、年末年始はそんなに大きく祝うことがありません。韓国は旧暦の 1 月 1 日に盛大に祝います。この旧正月のことを「クジョン」と言います。

「クジョン」では、皆がチョゴリを着てご先祖さんに挨拶をします。その後、お墓参りに行き、お年玉をもらって、ご飯ということになります。僕らとそんな違いはないのかなと思いました。

最後に、お正月の遊びについて紹介します。日本では、たこ揚げやこま回しなどがあると思いますが、韓国では「ユンノリ」という遊びをします。これは 4 つの細長いコマを投げ、出た数だけ進んでいく遊びです。日本でいう、すごろくみたいなものです。

僕の家と韓国の年末年始の過ごし方を書きましたが、みなさんはどうお過ごしになられますか？

V さん (8 期生)**「私にとって看護師とは」**

社会全体の高齢化が進む現代の日本にあって、看護師の存在意義がますます大きくなっています。医療の高度化が進むのに伴い、延命治療も大きく進歩しましたが、そこでは人間の尊厳を損なわない医療・看護の在り方が求められています。患者と接する機会が最も多い看護師は、患者の近くにおいて、心身ともに患者に寄り添うことができる立場にあり、そうした職に就くことが、私の憧れなのです。

私は患者にとって接しやすく、少しでも身近に感じてもらえるような看護師になりたいと考えています。私が高校 2 年生の時、とある看護師さんのお話を聞いて、看護師を強く志すようになりました。それは、実習先の病院でほとんど意識のない患者のケアを担当することになった看護学生の話です。医師も看護師も回復することが難しいと考えていた患者に対して、その看護学生は毎日毎日話しかけたそうです。すると実習の最終日に、ほとんど意識のないはずの患者が「ありがとう」とその看護学生にお礼を言ったのだそうです。このお話を聞いて、患者のそばにいて、生命を救い、守り、痛みや苦悩の中にいる人に安楽や安心をもたらす、その人の生活の質を高めるように尽力する、そんな看護師になりたいという夢を持つようになりました。

また近年では、病院が在日外国人や外国人旅行者を患者として受け入れる機会が増えている一方で、

外国人が安心して医療サービスを受けられる体制はまだまだ整っていません。医師、患者にとってコミュニケーションは不可欠ですが、外国人患者に対しては言語が大きな障壁となっていると思われれます。そこで私は、自分の母国の言葉であるベトナム語を練習して、患者に少しでも安心感を与えられるような看護師になりたいと考えています。

日本の医療には、まだまだ改善点があると思うので、人手不足や医療ミス、引きこもりなどの問題についても積極的に考えていきたいと思っています。

D さん (8 期生)

「平和のためにできること」

毎日のようにテレビやスマホから飛び込んでくるニュース。その大半は決して嬉しいニュースではない。テロリズム、紛争、核ミサイルなど、悲しくなる、怖くなるようなニュースばかりだ。人間はなぜ争うのだろうか、どうして世界は平和になれないのか、といつも疑問に思う。学校の世界史の授業の 7 割くらいはほぼ人間の争いの内容である。しかし、一昨年、少し嬉しいニュースを耳にした。それはコロンビアのサントス大統領がノーベル平和賞を受賞したことだ。その理由は約 50 年続いていたコロンビア政府と反政府左翼ゲリラによる内戦を終結させる和平合意の調印に大統領が努力したことに対するものだった。実際コロンビアに住んでいた私は、その内戦のひどいニュースを毎日見ていたので、このことを聞いたときは涙が出るほど嬉しかった。内戦は本当に恐ろしくて、毎日のようにテレビで誘拐されている人の姿が映されていた。実際には日本人も何度も標的にされていた。そのたび私は家から出るのがとても怖くなった。戦争は本当にあってはならないものだと思えた。

サントス大統領がインタビューで言っていた内容でとても印象に残る言葉があった。それは、「戦争は対話で解決できる」という言葉だ。これはサントス氏だけではなく、私の世界史の先生も言っていた。争いは武力では決して解決できないと改めて思った。だから、中東の問題などに、アメリカなどが武力で介入することはとても理解できないことだ。私も友達と意見の食い違いがあったり、けんかをしたりした時に、お互いに、相手の言うことを聞こうという姿勢をつくって、そして話し合いをすれば、すぐに仲直りができたことが何度もあった。世界をもっと平和にするには、人々は相手を尊重して、話し合いをすることがとても大切だと思った。私一人で世界を平和にすることは難しいので、せめて、私の周りの社会の平和のために貢献しようと思った。また、もっとたくさんのニュースを見て、知らないふりをするのではなく、世界でどのようなことが起っているのかを知ろうと思った。みんなで協力すれば、この世界はもっと平和な場所になると思うので、これから平和のために、少しでもいいから何か行動をしようと思った。